

International Student Symposium (ISS) 2022

—次世代サイエンティストの育成— 実施報告

ISS 実行委員長 羽田 宜弘（環太平洋大学）

本事業は次世代のサイエンティスト育成の場として、生徒、学生限定の学会として2018年度より開催しており、材料技術研究協会の知見を未来の若者へ繋げていく会として実施がされてきました。高大連携を取り入れた数少ない貴重な研究発表の場となり、理系生徒や学生のこれまでに学んだ成果を研究発表という形式で外に発信する機会の提供を材料技術研究協会が主催となり、学会の運営を執り行うことができました。また昨年度から研究倫理教育にも力を入れ、一般社団法人公正研究推進協会と連携し、中等教育における研究倫理の教材をオンライン上に用意し、シンポジウム参加者すべてに受講していただき、学校現場では難しい研究倫理教育の一役を担うことを実施してきました。また、観察・実験・実習や課題研究等を行なっている高校や大学の生徒や学生らに、科学技術人材に必要な科学的な知識及びプレゼンテーション技能を習得させるとともに、科学技術に対する興味・関心、知的好奇心や探究心などを高めて主体的に学習に取り組む態度を養うきっかけ作りをISSでは心がけております。更に主体的に課題を発見し、それを解決することの重要性を判断し、課題解決を実践できる力を発表できる場を設けることによって、科学技術の分野で世界を舞台に活躍し得る創造性豊かな人材が活躍でき発表し、表彰を受けられる場とすることが、本事業の最大の目的です。

1. 実施日と実施場所

2022年8月27日に材料技術研究協会主催として、オンラインで開催した。

2. 本事業の参加者数

① 応募件数

ポスター発表、口頭発表の合計19件

② 参加者数

生徒・学生、教員69人、審査員等15人、その他5人（合計89人、2022年実績）

3. 表彰制度

理事らが審査員となり、発表者の中から、特に優秀なものに対して、ゴールド賞6件、シルバー賞13件を授与した。

4. 参加者のアンケート結果

本大会の参加者からの評価として満足度について、各観点からそれぞれの参加者から回答を得たので報告をする。

アンケートは、本大会の満足度について、各観点からそれぞれの参加者から回答を「1. 大変不満」「2. やや不満」「3. 普通」「4. やや満足」「5. 大変満足」の五軒法にて、アンケート結果を得た。

① 参加者のISS全体満足度

約84%が大変満足、やや満足と回答しており、参加者の満足度が高いシンポジウムとして、シンポジウムの運営方法も含めて、評価いただけていると認識している。昨年よりも「5. 大変満足」という回答が13%向上した。

② 研究との関連性についての満足度

約77%が大変役立った、やや満足と回答しており、昨年度との比較では約13%マイナスとなったが、全体的に役立つと回答している参加者が多い結果となった。

5. 謝辞

ISSの開催は、非常に多くの方々のご尽力により毎年運営ができております。実行委員の理事の方々、審査員として協力をいただきました理事の方々に感謝を申し上げます。また、ISSの開催にあたり、助成金としてご支援をいただきました、「公益財団法人東京応化科学技術振興財団様」および「東京エレクトロン株式会社様」に心よりお礼を申し上げます。

ゴールド賞受賞者（口頭・ポスター発表） （敬称略）

L04 泡が保持される炭酸飲料の開発

山形県立山形東高等学校

○木島沙椰， 上野理生， 棚村好彦

L06 TiO₂ ナノニードルによる殺菌作用

千葉工業大学 先進工学部¹，

産業総合研究所²

○鳥羽悟史^{1,2}， 白坂知也^{1,2}， 山野凌^{1,2}， 根岸信彰²， 宮崎ゆかり²， 黒崎直子¹

L07 谷津干潟の泥土を利用した微生物燃料電池に関する研究

千葉工業大学 工学部

○根立拓郎， 山田翔吾， 小浦節子， 橋本香保子， 高橋伊久磨

P04 米軍基地と海の生き物の共存 ～沖縄のサンゴ礁を赤土から守る～

郁文館高等学校

○後藤ちえり， 舞床咲理華， 渡邊あゆか

P11 糖鎖ポリマーを用いた標的指向性を持つナノゲルの作成と免疫治療への展開

東京理科大学大学院 理学研究科

○奥田裕樹， 大澤重仁， 大塚英典

P12 温度応答性高分子 pNIPAAm をマイクロパターン化したスフェロイド培養基板の作成とスフェロイドの非侵襲的回収

東京理科大学 大学院理学研究科

○手島 涼太， 大澤 重仁， 大塚 英典